

【資料提供】
平成28年6月20日
国際交流課 交流協力G
TEL：076-225-1382
内線：3979

マンスフィールド財団副理事長による観光戦略推進部長表敬訪問について

- 1 日 時 平成28年6月21日（火） 11：00～
- 2 場 所 行政庁舎12階 観光戦略推進部会議室
- 3 来訪者 マンスフィールド財団
ベンジャミン・セルフ 副理事長（※略歴別紙）
- 4 来県目的 マンスフィールド財団研修生（アメリカ合衆国連邦政府職員）の石川
ジャパニーズ・スタディーズ・プログラム（IJSP）参加に係る挨拶
のため
- 5 来県日程 6月21日（火）
9：30 石川県国際交流協会訪問
11：00 石川県観光戦略推進部長表敬訪問

（参考）マンスフィールド財団

設立：1983年

所在地：米国ワシントンDC（その他、東京事務所あり）

概要：故マイク・マンスフィールド元駐日大使の30年以上にわたる米議会における活動に敬意を表
するため、米国議会からの支援を受けて設立。1994年に米国議会により成立したマンスフィー
ルド研修計画法に基づくマイク・マンスフィールド・フェローシップ・プログラムを運営。

※マイク・マンスフィールド・フェローシップ

日本の行政システムや生活文化を学ぶとともに、各自の専門分野に係る政府、企業、
学者等とのネットワーク構築により、知日派の米国連邦政府職員を養成するもの。石川ジャ
パニーズ・スタディーズ・プログラム（IJSP）で7週間の日本語・日本文化研修を受けた後、
10ヶ月間、日本政府の各省庁等で実務研修を実施。

IJSP参加経緯：マンスフィールド財団東京事務所スタッフがIJSPの評判を聞き調査を実施したところ、
非常に充実しているとの結果が得られ、2000（H12）年に知事とゴードン・フレーク所長（当
時）との間で、米国連邦政府職員への派遣・受入について合意書を調印。2000年から
毎年研修員を受け入れ、これまでに102名を受け入れ。

ベンジャミン・セルフ
マンスフィールド財団副理事長



モーリーン・アンド・マイク・マンスフィールド財団副理事長。49歳。

米国議会が創設した中堅レベルの米国連邦政府職員向けの日米政府間交流事業である「マイクマンスフィールド・フェローシッププログラム」のディレクター、また2009年に次世代の日本専門家育成のために立ち上げられた「日米次世代パブリックインテリクチュアル・ネットワーク」プログラムのマネジメントに加え、財団の総合的な運営方針やファンドレイジング活動について、フランク・ジャヌージ理事長に提言や戦略的助言を行う。

セルフ氏はこれまで、スタンフォード大学アジア太平洋研究センター日本研究学の高橋寄附講座シニアフェローを務め、1998年から2008年まで、ヘンリー・スティムソンセンターのシニアアソシエイトとして、日本の安全保障政策について研究を行い、日中関係、日米同盟と中国の間での安全保障協力推進、日本の選択肢としての核問題、信頼構築方針などに関するプロジェクトを管理した。さらに、核不拡散・軍縮問題、弾道ミサイル防衛、台湾の安全保障、北東アジアの安全保障力学、日本の防衛政策をめぐる国内政治、日本のグローバル安全保障への役割などに関する研究や執筆を行った。アフリカに滞在した2003年から2008年には、人道援助、経済発展、紛争抑止、資源開発などの分野での日本のアフリカでの役割について研究した。

また、ジョージタウン大学、ジョージワシントン大学、アメリカン大学で非常勤講師を務めた経験も持つ。

セルフ氏はスタンフォード大学から政治学で学士号、ジョンズ・ホプキンス大学(SAIS)から日本研究および国際経済学で修士号を取得。ウッドロー・ウィルソン国際センターのアジアプログラム部での勤務経験、および1996年から1998年にはフルブライト奨学金を得て、客員研究フェローとして慶應義塾大学で研究活動を行った。